

交通インフラ事業



交通インフラ事業

社会経済の大動脈である高速道路の補修を通じ、皆様の快適な旅や迅速な物流を支えます。

専務取締役 / 交通インフラ事業担当

中村 成一



高速道路の安全を24時間365日体制で守り続ける。環境や安全に万全の配慮を払いながら、幅広い業務に対応しています。

2023年9月期は売上高・営業利益ともに、予算および前期実績を上回ることができました。エンジニアリング事業では、(株)日新ブリッジエンジニアリングとのシナジーが生まれ、相互の売り上げ増加に貢献できる受注体制が確立してきました。一方で人手不足が続いており、とくに資格保持者の採用が進みませんでした。メンテナンス事業も堅調でしたが、やはり人手不足が深刻で、維持修繕作業や交通規制等の警備員の確保、協力会社の確保と苦戦を強いられました。一方でグループの警備会社との協力体制は整ってきています。

今後の成長に向けては、まずは土木施工管理、電気工事士、電気施工管理、電検三種など資格取得者の確保、増

員が課題となっており、求人採用の強化と協力会社の開拓を図ります。同時に社内の労働環境の向上を進め、定着率の向上も図ります。このほか、安全品質向上のための組織体制の強化や、OJTの充実による技術力の向上、グループ会社とのシナジー強化などに取り組めます。加えて、エンジニアリング事業では、静岡や北陸、関東など各エリアの強化に向けた施策を個別に展開します。道路照明灯事業では、道路灯以外の入札案件への参入強化や、監理技術者・主任技術者となれる人材の育成、確保を推進してまいります。

3C分析

Customer 顧客

NEXCOグループや地方自治体を中心。事業の特性上極めて高い安全性が求められており、その水準の高さが参入障壁となっている

Competitor 競合

高速道路の安全管理水準の高さから競合は少ない。競合関係というよりも、お互いに支えあう共存共栄のスタンスが強い

Company 自社

緊急時の迅速な対応など、顧客の要望に応じて柔軟に対応できる点が強み。柔軟に対応する上で様々な協力会社を確保し、体制作りの強化を図っている

2023年9月期の事業概況



事業環境としては、高速道路などの老朽化が進み、維持管理費は2018年度実績で1.9兆円、2028年には2.6兆円*に増加することが予想されています。このような事業環境の中、2022年2月にグループ化した(株)日新ブリッジエンジニアリングが通期で寄与したことなどから売上高、営業利益ともに前期比増収増益となりました。エンジニアリング分野では道路照明灯のLED化に関して自治体需要が堅調に推移し、メンテナンス分野では高速道路の維持管理などの案件も順調に推移しました。

*「国土交通省所管分野における社会資本の将来の維持管理・更新費の推計」・「老朽化対策の取り組み」国土交通省・社会資本の老朽化の現状と将来(インフラメンテナンス情報)より

成長戦略

中期経営計画では注力分野としてエンジニアリングサービスの拡大と深化分野としてメンテナンスサービスの高収益化を掲げています。技術者の獲得と教育によりエンジニアリングサービスを拡大し、外注の割合を減らすことでメンテナンスサービスの高収益化を目指します。

中期経営計画における交通インフラ事業のポジショニング

- ▶ エンジニアリングサービスの拡大とメンテナンスサービスの高収益化
- ▶ M&Aを活用して西日本、東日本へのエリア拡大も視野

注力分野

エンジニアリング
サービス

深化分野

メンテナンス
サービス

TOPICS

M&Aによる道路エンジニアリング分野の成長拡大

東海だけでなく関東や北陸にも拠点ができ、幅広いエリアでの業務拡大に注力します。

2023年7月に、交通工学に関する豊富な知識と電気通信に関する高い技術を有する(株)興電社が、2023年9月には鉄道関係の保守メンテナンス業務、公共施設の給排水衛生設備・空調設備工事を行う(株)テッククリエイトがグループ化しました。(株)興電社は神奈川県、(株)テッククリエイトは石川県を拠点にしており、幅広いエリアでの業務拡大に注力しています。

グループ会社間連携による 業務エリア拡大

